

第12回オンライン研究会シンポジウム

2021年

3月20日(土)

18:00～20:00
(17:00受付開始)

主催：新日本スポーツ連盟附属スポーツ科学研究所

革新自治体の誕生と 地域スポーツ運動の発展

①趣旨説明：何故今 1960・70年代のコミュニティ・スポーツ行政と
地域スポーツ運動に着目するのか

青沼裕之 氏 (スポーツ科学研究所事務局長)

②コミュニティ・スポーツクラブづくりの三鷹方式の創出とその後 (仮題)

尾崎正峰 氏 (一橋大学教授)

③東京都連盟の結成とその後 (仮題)

伊賀野明 氏 (東京都連盟顧問)

方法：Zoomによる
オンライン・シンポジウム
参加費：無料
申込〆切：3月17日(水)



お申込み方法

下記の事務局メール (または電話・FAX) で「お名前」「メールアドレス」「電話番号」を事務局に伝えて、お申込みください。後日、Zoom の入室アドレスをお送りします。

※Zoom (パソコンやスマートフォンを使って、セミナーやミーティングをオンラインで開催するためのアプリ) を使用して、配信します。

※Web セミナーを受講するには、あらかじめ Zoom をパソコンまたはスマートフォンにインストールしておく必要があります。

ご不明な点がございましたら、事務局までお気軽にお問い合わせください。

事務局メール science@njsf.net TEL 03-3986-5401 FAX 03-3986-5403

— シンポジウム開催の趣旨 —

近年の自民党政府の国家戦略は、経済成長に資する巨大なスポーツ・イベントとそれに伴う大型施設の建設、並びに国民の健康のためのスポーツ産業の育成とスポーツ・ツーリズムに重点を置いている。他方で地域スポーツは、一面では経産省の進めるスポーツの成長産業化政策により、もう一面では国交省のコンパクト・シティ形成と総務省のスマート自治体構想に基づく公共施設総合管理計画のもとで、弱体化されてきている。

同時にまた、1990年代半ば以降の歴代内閣の下での地域スポーツ振興策では、中央行政の“公助”は不問に付して、地方自治体の責任のもとに、地域住民の“自助”と総合型地域スポーツクラブ、NPOなどの“共助”によって地域スポーツ振興を推し進めようとしており、今後の地方自治体の政策がどのように展開されていくかが極めて重要な課題となっている。

そこで、地方自治体行政と自主的な地域スポーツ運動とが連動して地域スポーツ振興を進めようとした1960・70年代に焦点を当てて、そこから成果と課題を探り、現代のスポーツ運動に生かしたいと考える。

具体的には、1960年代の東京都、三鷹市の革新自治体の誕生とその後の政策展開の過程で、新しくコミュニティ・スポーツ振興の運動が盛り上がりを見せ、またそれと呼応する形で前向きの行政対応が進んでいく過程を再考し、明らかにしていきたい。つまり、三鷹方式と呼ばれるコミュニティ・スポーツ・クラブづくりを進めた三鷹市体育指導員協議会と行政の施策について、並びに新日本体育連盟東京都連盟の結成と具体的な運動について検討する。加えて、1972年保体審答申へとつながっていく運動、行政の流れを改めて把握したいと思う。

ご不明な点がございましたら、事務局までお気軽にお問い合わせください。

事務局 メール science@njsf.net

TEL 03-3986-5401 FAX 03-3986-5403

